



高ストレス者、
長時間労働者、
がんと就業の両立支援対象者に
必要な情報収集および、
その有効活用の検討

 福岡産業保健総合支援センター

所長 織田 進

October 30th, 2018 調査研究発表会

はじめに

現在、多くの中小規模事業場の健康管理において、健康診断の結果記録に紙媒体が使用されている。そのため産業医や保健師等が長期の経年的データを参照できず、糖尿病などの慢性疾患の生活習慣改善に十分な効果が得られにくい。産業医・保健師等が健康診断の事後措置等の面談の際に、効果的かつ効率的な活用を目指して平成27年度は「健康管理システム」を作成した。

また、高ストレス者、長時間労働者、がんと就業の両立支援対象者、メンタルヘルス不調者の職場復帰における面接などを担当する産業医は、事業場、本人および主治医から多様な情報を入手して、各面接の目的に対して適切に判断する必要がある。しかし個人の情報が別々に蓄積され、その判断は容易ではなく、必要な医療情報を入手するためには多くの手間と時間がかかる。

平成29年度

これらの情報を経年的に一元管理できる
「両立支援サポートシステム」試作した。

対象者の選出とその方法



「両立支援サポートシステム」の作成方法

平成29年度は、事業場担当者、主治医、産業医、労働衛生専門職、両立支援促進員が疾病や障害を抱える労働者の医療情報を記録し、支援状況を共有できる「両立支援サポートシステム」をデータベース開発ソフト **FileMaker Pro** を用いて試作した

結果および考察



「ストレスチェックプログラム」活用における結果および考察

中小規模事業場から当センターへのストレスチェック実施についての相談



ストレスチェックの実施方法を詳しく教えてほしい。

自社で実施したいが具体的な方法がわからない。



※ 1回のみ事業場の役割を体験してもらった。

結果および考察



「ストレスチェックプログラム」活用における結果および考察

平成29年度 ストレスチェック実施企業一覧

A社

49名 特注建具、防火ドア等の設計

B社

41名 産業用各種機械加工工事、各種配管工事等

C社

52名 ソフトウェア・ハードウェア開発

D社

15名 育児支援、総合家庭支援事業コンサルタント

E社

17名 電気電子材料及び部品、化学工業製品等の販売

F社

53名 パーティション・サニタリー等販売加工等

結果および考察



「ストレスチェックプログラム」活用における結果および考察

ストレスチェック実施における回答方法

1. アンケート用紙で回答



2. インターネットを介して回答



結果および考察



「ストレスチェックプログラム」活用における結果および考察

ストレスチェック実施における回答方法別の問題点

1.

アンケート用紙で回答

- 個人情報保護の観点からひとりずつ、封書に入っているため開封して入力するため手間がかかる。
- 二重回答や記入漏れが全体の1割ほどあった。再度、回答してもらうために事業場に郵送するなど、時間がかかった。
紙媒体のアンケートでの回答は、記入漏れや二重回答に注意喚起することは難しい。
- 厚労省のストレスチェック実施プログラム用のエクセルのテンプレートに入力：入力ミス防止のため、ふたりでそれぞれ1回ずつ入力し照合した。
- エクセルのバージョンが違うなどの理由でインポートに戸惑うことがあった。
- 事業場のストレスチェック担当者や産業医がPCに不慣れな場合、暗号化USBメモリーの使用方法が理解しづらく、暗号化USBメモリーに設定したパスワードを失念するケースもあった。

結果および考察



「ストレスチェックプログラム」活用における結果および考察

ストレスチェック実施における回答方法別の問題点

2.

インターネットを介して回答

- 社員IDとパスワードを設定
- **二重回答や記入漏れがないようにプログラム**されている。
- 事業場担当者が受検者にパスワードと回答画面のURLを知らせた。
- 各自のスマホから任意の時間に回答可能で便利な反面、いつでも回答できるという安心感から先送りとなり、回答率は低かった。
管理画面から未回答者を閲覧し、担当者から受検者に催促してもらった。

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムに入力を施行

同意書について

ネットワークを介して
使用するには、
支援を受ける労働者、
その事業主及び産業医、
主治医などの同意が必要である。

同意書

平成 年 月 日

独立行政法人労働者健康安全機構
福岡産業保健総合支援センター
所長 織田 進 様

治療と就労の両立支援を受けるに当たって、必要な資料を入手し、貴センターが保存し、利用することに同意します。

1. 主治医の診断書、診療情報提供書
2. 産業医の意見書
3. その他（ ）上司、（ ）同僚、その他（ ）の情報提供
4. 当センターが両立支援で、入手できた資料について、
下記の方法で保存し、利用することに同意します。
 - ① 保存及び利用は、紙で実施する。
 - ② 保存は、電子ファイルにし、USB（パスワード設定および暗号化付き）
で必要な相手にその情報を提供する。
 - ③ 保存はサーバーにして、インターネット（パスワード設定および暗号化
付き）を介して、必要な相手にその情報を提供する。
5. 個人名、企業名などを匿名化し、報告書などに記載する。

以上

住所
氏名

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムへ医療情報を登録

現状

今のところ労働者から同意を得られた事例がないため、本人の同意のもとに取得した資料を当支援センター内で両立支援システムに登録した。登録内容はコンピュータ単体で管理される。



結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムから医療情報の印刷

印刷画面

労働者の氏名、生年月日、性別など、入力済み事項は再入力の必要がなく文書、資料作成に**手間と時間が節約**できる。

各職種の記録から**必要事項の内容が反映**される。
各職種の記録する項目については、両立支援の症例を重ねることで今後も検討する必要がある。

治療の状況や就業継続の可否について主治医から事業所へ提供する際の様式
(診断書と兼用)

博多工業 山下 久実 様 平成 年 月 日

従業員氏名	福岡 太郎	生年月日	昭和45年1月1日
住所	福岡市博多区博多駅1111		

病名	原田病 ステロイドの離脱症状により関節痛、しびれなどがある。
現在の症状	
治療の予定	週に1度の検診が必要
退院後/治療中の就業継続の可否	条件付きで可(就業上の措置があれば可能)
業務の内容について 職場で配慮した方	車の運転は不可

FileMaker Pro

印刷 が中止されました。このスクリプトを続行しますか？

続行(C) キャンセル

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムから医療情報の印刷

印刷可能な資料①

『事業場における治療と職業生活の
両立支援のためのガイドライン』
(厚生労働省、平成28年2月) より、

情報を主治医に提供する 際の様式例

勤務情報を主治医に提供する際の様式例

坂上外科 織田 達 先生 平成 年 月 日

今後の就業継続の可否、業務の内容について職場で配慮したほうがよいことなどについて、先生にご意見をいただくための従業員の勤務に関する情報です。
どうぞよろしくお願い申し上げます。

従業員氏名	福岡 太郎	生年月日	昭和45年1月1日
住所	福岡市博多区博多駅1111		
職 種	営業		
勤務内容	パソコン部品の営業		
勤務形態	☐ 体を扱う作業(重作業) ☐ 寒冷場所での作業 ☒ 対人業務 ☐ 体を扱う作業(軽作業) ☐ 高所作業 ☐ 遠隔地出張(国内) ☐ 長時間立位 ☒ 車の運転 ☐ 海外出張 ☐ 暑熱場所での作業 ☐ 機械の運転・操作 ☒ 単身赴任		
勤務時間	常勤勤務 () 8:00 AM ~ 6:00 PM (休息 1 時間、週 5 日間、)		
通勤方法	(時間外・休日労働の状況:) (国内・海外出張の状況:)		
通勤時間	徒歩 ☒ 公共交通機関(乗車不可) ☐ その他 ☐ 公共交通機関(乗車可能) ☐ 自転車 () (通勤時間: 30 分)		
休業可能期間	平成30年04月30 まで (10 日間)(給与支給 無 傷病手当金 %)		
有給休暇日数	残 日間		
その他 特記事項			
利用可能な 制度	☐ 時間単位の年次有給休暇 ☒ 短時間勤務制度 ☐ その他 ☐ 傷病休暇・病気休暇 ☐ 在宅勤務(テレワーク) () ☐ 時差出勤制度 ☐ 試し出勤制度		
上記内容を確認しました。			
平成 年 月 日	(本人署名)		
平成 年 月 日	(会社名) 博多工業		

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムから医療情報の印刷

印刷可能な資料②

『事業場における治療と職業生活の
両立支援のためのガイドライン』
(厚生労働省、平成28年2月) より、

治療の状況や就業継続の
可否などについて主治医
の意見を求める際の様式
例（診断書と兼用）

治療の状況や就業継続の可否について主治医から事業所へ提供する際の様式
(診断書と兼用)

博多工業 山下 久美 様 平成 年 月 日

従業員氏名	福岡 太郎	生年月日	昭和45年1月1日
住所	福岡市博多区博多駅1111		

病名	原田病
現在の症状	ステロイドの離脱症状により関節痛、しびれなどがある。
治療の予定	週に1度の検診が必要
退院後/治療中の 就業継続の可否	条件付きで可(就業上の措置があれば可能)
業務の内容について 職場で配慮した方が よいこと (就業上の措置)	車の運転は不可
その他 配慮事項	十分な睡眠をとる
上記の措置期間	～

上記内容を確認しました。
平成 年 月 日 (本人署名)

上記のとおり、診断し就業継続の可否等に関する意見を提出します。
平成 年 月 日 (主治医署名)

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムから医療情報の印刷

印刷可能な資料③

『事業場における治療と職業生活の
両立支援のためのガイドライン』
(厚生労働省、平成28年2月) より、

復帰の可否等について主治医の意見を求める際の
様式例。

治療の状況や就業継続の可否について主治医から事業所へ提供する際の様式
(診断書と兼用)

博多工業 山下 久実 様 平成 年 月 日

従業員氏名	福岡 太郎	生年月日	昭和45年1月1日
住所	福岡市博多区博多駅1111		

病名	原田病 ステロイドの離脱症状により関節痛、しびれなどがある。
現在の症状	
治療の予定	週に1度の検診が必要
退院後/治療中の 就業継続の可否	条件付きで可(就業上の措置があれば可能)
業務の内容について 職場で配慮した方がよいこと (望ましい/就業上の措置)	車の運転は不可
その他 配慮事項	十分な睡眠をとる
上記の措置期間	～

上記内容を確認しました。

平成 年 月 日 (本人署名)

上記のとおり 診断し就業継続の可否等に関する意見を提出します。

平成 年 月 日 (主治医署名)

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムから医療情報の印刷

印刷可能な資料④

『事業場における治療と職業生活の
両立支援のためのガイドライン』
(厚生労働省、平成28年2月) より、

両立支援プラン/職場復帰
支援プランの作成例。

両立支援プラン/職場復帰支援プランの作成例

平成 年 月 日

従業員氏名	高橋 一郎	生年月日	昭和46年1月5日
住所	福岡市博多区博多駅前2-10-1		

治療・投薬等の 状況・今後の予定			
期間	勤務時間	就業上の措置・治療への配慮等	治療等の予定
	~		
	~		
	~		
業務内容			
その他 就業上の配慮事項			
その他			

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

両立支援サポートシステムのセキュリティ対策

通信の安全性の担保

- セキュリティサーバーでの運用
- 該当ファイルの暗号化
- SSL暗号化通信（常時SSL化）
- 不正アクセス防止
- 使用端末を指紋認証および顔認証機能を搭載したiPhone、iPadに限定する。
- 使用するアプリケーションをFileMaker Goのみにする。
- FileMaker Goによる指紋認証および顔認証ログイン機能を使い、堅固なセキュリティを確保する。



両立支援サポートシステムセキュリティ対策について

両立支援サポートシステム セキュリティ対策

結果および考察



「両立支援サポートシステム」全体像

労働者に対する 両立支援状況

[スタート画面へ戻る](#)

現在の労働者情報

労働者	労働者勤務地	
ID 1044	ID/登録日 WK029 2018/04/03	新規 履歴
登録日 2018/03/29	勤務先 博多工業	
労働者名 福岡 太郎	部署/役職 営業部 課長	
生年月日 1970/01/01	TEL 092-111-1111	
性別 男	メール abc@abc.ne.jp	
	〒/住所 812-0000 福岡市博多区博多駅1111	
	業種/事業内容 製造業 パソコン部品製造	
	規模/労働者数 50人未満 25	

現在の関係者情報

事業所担当	主治医	産業医	労働衛生専門職	両立支援促進員
ID/登録日 OF100 2018/04/03	新規 履歴			
担当/事業所名 山下 久実 博多工業				
TEL/FAX 092-000-0000 092-000-0000				
メール kumi@abc.ne.jp				
〒 812-0000				
所在地 福岡市博多区博多駅南1111				

両立支援履歴

事業所の活動登録

主治医の活動登録

産業医の活動登録

専門職の活動登録

促進員の活動登録

登録日	登録区分	登録項目	入力者	コメント
2018/04/05	主治医	就業継続の可	織田 進	産業医の支援登録サンプルです 産業医の支援登録サンプルです 産業医の支援登録サン
2018/04/05	事業者	勤務情報	山下 久実	事業所担当者のサンプルコメントです 事業所担当者のサンプルコメントです 事業所担

結果および考察



「両立支援サポートシステム」活用における結果および考察

「両立支援サポートシステム」運用に関する今後の課題

今後のセキュリティ対策の課題

- サーバーへの不正アクセスの監視体制措置
- VPN接続（インターネット経由ではなく直接サーバーに接続する）
- IPアドレスによる接続制限（特定のIPアドレス以外は接続させない）
- ワンタイムパスワード発行や、2重認証などの不正防止措置

事業所、医師、産業医、労働者については、両立支援システムを利用するにあたっての個人情報取扱いに関する覚書を締結する。

結果および考察



「両立支援サポートシステム」今後の運用と展望

高ストレス者、長時間労働者の医師の面接指導について福岡産業保健総合支援センターに相談があった中から、両立支援の対象者を選定する。

現段階では、iPhone, iPadで利用可能であるが、今後はiPhone以外のスマートフォンでも利用可能にする。

セキュリティーおよび個人情報の保護の観点から、本システムのネットワーク上での活用に不安を訴える意見が多いため、サーバー、通信方法、運用方法など社会的に許容される条件を検討する。

「健康管理システム」と「両立支援サポートシステム」は、企業内の健康管理にも活用でき、個人でも管理が可能である。健康管理にコンピュータシステムが導入されていない小規模事業場の労働者も活用できる。

「健康管理システム」と「両立支援サポートシステム」を個人で管理できるようになれば、個人が自分の健康に関心をもち、そのデータを自己の健康管理や診療時に活用できる。

両立支援に保険点数が設定されたことにより、本システムのような記録が重要となる。

おわりに



地域のネットワーク活用

産業医や保健師が長時間労働者や高ストレス者、がんと就業の両立支援の対象者、メンタルヘルス不調者に、よりよい支援を提供するには、最近の医学知識、各種専門医とのネットワーク、その他労働者からのあらゆる問い合わせに対し、誰がいつ、どのように回答するかを明確にし、その**医療情報を他の支援関係者と共有する必要がある**。そのためには、**ネットワークを介した際のセキュリティを強化**しなければならない。

さらに病気をもつ労働者が急変した際に備えて、**救急システムとの連携**が望まれる。例えば福岡県では、かかりつけ医、救急病院及び大学病院間のネットワーク“**とびうめネット**”との連携が考えられる。このように各地域の救急ネットワークを活用することによって、病気の急変等にもスムーズに対応できるネットワークが実現することが期待される。



高ストレス者、長時間労働者、がんと就業の両立支援対象者
に必要な情報収集および、その有効活用の検討

ご清聴ありがとうございました。

 福岡産業保健総合支援センター

所長 織田 進